

ハイキングの目的	スカウト 浜松	ハイキングの語源
美しい自然と接しながら、平素の実習を行いつつ、観察力を練磨し、協力と友情によって、グループ意識の昂揚を図り、心身を鍛錬する。 そして、いつでも楽しい雰囲気で終始する。	 <p>スカウト 浜松</p>	英國の古語であるが、約60年前に英國のボーイスカウトが採り上げたものである。日本では徘徊とか、行脚とかいって、芭蕉や西行法師、役の行者等のそれが有名である。



〔西部ブロック・キャンポリーから……茶道風景〕

## 西部ブロック・キャンポリー

昭和50年8月9・10・11日 川宇連野営場

### 西部ブロック・キャンポリーワークスケジュール

第1日(8月9日)	第2日(8月10日)	第3日(8月11日)
○各団ごとの行事	○教育的行事	○お祭り的行事
○夜間ゲーム	○音楽	
6: 起床、洗面、清掃、朝食		同上
7:		
8: 集合、点検、出発	朝礼	同上
9: ハイク出発 (東光院の由来)	1. 12時ハイク 2. 地図 3. 三角点を求めて (鹿の里山) (669m)	自由コーナーへの挑戦 1. 01 2. 3. 4. 5. 6. 7. 8. 9. 10. 11. 12. 13. 14. 15. 16. 17. 18. 19. 20. 21. 22.
10:		
11: 野営地到着、昼食	ハイクのまとめ	自由コーナー 1. 2. 3. 4. 5. 6. 7. 8. 9. 10. 11. 12. 13. 14. 15. 16. 17. 18. 19. 20. 21. 22.
12: 開所式、リーダー紹介	昼食	自由コーナー 1. 2. 3. 4. 5. 6. 7. 8. 9. 10. 11. 12. 13. 14. 15. 16. 17. 18. 19. 20. 21. 22.
13: 設営	ハイクの発表	自由コーナー 1. 2. 3. 4. 5. 6. 7. 8. 9. 10. 11. 12. 13. 14. 15. 16. 17. 18. 19. 20. 21. 22.
14: 各隊の行事	技術コーナーへの挑戦 ○音楽 5. 通じ 9. 組合 6. 運動 6. 読書 10. 音楽曲 7. 研究 7. 自然愛護 11. インタビュ 8. 安全 8. 計測 12. ラマ	自由コーナー 1. 2. 3. 4. 5. 6. 7. 8. 9. 10. 11. 12. 13. 14. 15. 16. 17. 18. 19. 20. 21. 22.
15:		
16:		
17: 夕食	夕食	自由コーナー 1. 2. 3. 4. 5. 6. 7. 8. 9. 10. 11. 12. 13. 14. 15. 16. 17. 18. 19. 20. 21. 22.
18:		
19: 夜間ゲーム(光、音、空)	宵次	
20: 開拓作業	同上	
21: 班長会議、班会議	同上	
22: 消灯	同上	

### キャンポリーの成果

(リーダー会での反省から)

- この3日間の活動をとおして、スカウト達は、みんなで協力し助け合っていこうという心のつながりを持つことができた。
- 新しい課程(特修章)へのよう戦をさせることにより、各人が能力に合わせて積極的に課題にとり組むことができた。自ら求めて行動するスカウトが多くなった。
- 自由コーナーのなかに茶道を入れたが非常に好評であった。これは、キャン生活の中で、AMからお茶をいただいたことにより、心のやすらぎとともに、家庭のやわらか味を味わうことができたからであると考える。今後は、こうした心の豊さをもたらすための活動をとり入れていくことも必要なことであると思う。
- このキャンポリーをきっかけとして更に自主的なキャンポリーの実施や、各隊の活動に対し他の隊のリーダーも積極的に応援し、西部ブロックが結束して進んでいきたいと考える。

団	4	7	11	12	19	計
スカウト	10	9	29	28	27	103
リーダー	7	6	4	13	6	36

AM6 AM6

# 『西部キャンポリーの記録』より

## 第1日（8月9日）

朝から猛暑が照りつける中を、和地山の集合地点に汗ばんだスカウトや見送りの父兄が続々と顔を出す。

予想外に多い参加者のため、予定していた1台のバスには乗りきれず、同行のリーダーや野営行事委員の方々の車に個人装具やスカウトの1部が同乗し出発する。

目的地川宇連野営場は、樹間の為涼しく、谷川を渡る風もまた冷たい。ヒグラシのけたたましい鳴き声があたりの静けさをやぶる。

ブロック長より野営地が指示され、奥土場より47団、中央本部前11、12団下って19団とそれぞれ搬入の器材を降す。

昼食後、4団牧野C S隊長の総会司会により、開所式を行う。

ブロック長挨拶、リーダー紹介に続き八木本隊長より次のような注意事項が伝達される。

- (1)水を大切に、川に入るな。
- (2)立木をいたわり、キズつけるな。

(3)リーダーの注意を守れ。個人行動はつつしめ。

その後4団千葉隊長より野犬が多いため汚物で焼却できるものは早目に処理できないものは持ち帰るように指示がある。

## ◎夜間ゲーム

19時開始。夕食の途中で集まるスカウト、班長に呼ばれたら班長をさがしているスカウト等、班長の指導力の差、訓練の差がはっきりする。

樹間は適當な暗さがあるが、梢から見上げる空は夕焼の残照に映え美しく、明日の好天を約束するよう明るい。

### ゲーム内容

光、音、臭、感覚による品物の弁別、個人の得点を集計した成績による団対抗。

1. 光（マッチの火、懐中電池の火、たばこの火、ライターの火、炭火）
2. 音（石と石、竹と竹、なべと木、木と木を打つ音、手拍子）
3. 臭（ガソリン、アルコール、玉ねぎ、しょうゆ、ヘアトニック）
4. 感覚（ナイフ、シラフ、キャップ、ピン、タワシ）

暗やみで何を持たれるかわからない気持ち、不安の気持ちでタワシを持ったときは気味わるいものであろう。

各団ごとの得点は下のとおり

得点表	順位	1	2	3	4	5
団	12	19	11	7	4	
得点	8.8	8.5	7.4	6.4	5.1	

## ◎風呂

12団の望月隊長が今回のキャンポリーに合わせるべくドラムカン風呂を作る。夜空に星空を眺め川の音を聞きながら、上下する中ぶたにゆられての風呂は格別であった。

## 第2日（8月10日）

夏の山の朝は小鳥の声にはじまる。足もとの谷川のせせらぎが中空の小鳥の声と調和して美しいメロディーを奏でる。

朝はだれもが気分一新できるのだ。

朝礼後ブロック長より午前中のハイクの課題についての説明があった。



西部キャンポリーで熱心に研修するスカウト連

1. 史跡ハイク 東光院の由来について。

2. 地図（三角点を求めて）ハイク

海拔699m の鳩の巣山の頂上を求めて。

史跡ハイク8班、地図ハイク7班、それぞれ班長の指示のもとに出発していく。

帰着後、報告書を提出する。

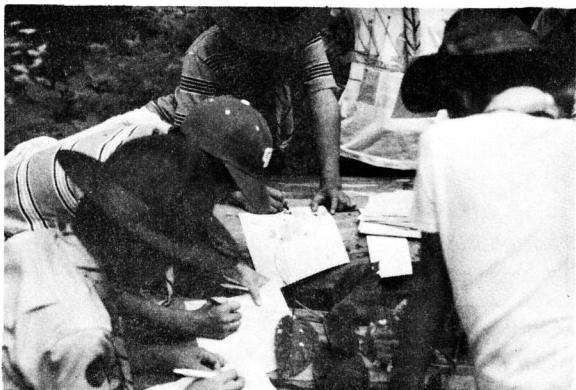
報告書の書き方で特に時間と行動とが不正確であったから今後注意するようにという指導がブロック長からあった。

## ◎技能コーナーへのちょうど戦

新制度による級別特修章、技能章（案）にもとづいて次の9コーナを設置し、スカウトは班単位でそれぞれのコーナーにちょうど戦し、カードにサインをしてもらった。

設置したコーナーと担当リーダー

- |             |             |
|-------------|-------------|
| 1. 公民 (11団) | 2. 救護 (7団)  |
| 3. 観察 (7団)  | 4. 計測 (11団) |
| 5. 通信 (19団) | 6. 読図 (11団) |



西部キャンポリー参加者たち

7. 自然愛護(12回) 8. 結索(4回)  
9. 安全(19回)

1. O.L.(西部) 2. ハム(7回)  
3. 茶道(12回) 4. 弓矢(11回)

これを契機に各スカウトは新しい特修章をめざして訓練にはげんでほしい。

なお、明日に予定していた自由コーナーのうち、担当リーダーの都合により次の2つを本日実施した。

10. 絵画(19回) 11. スキル・オ・ラマ(19回)

おくれて参加するスカウトが、团委員につきそわれたり、タクシー等を利用して、次々に入山するとこれと反対に明日登校日等のため夕方下山するスカウトも見受けられた。

### 第3回(8月11日)

夜半雨音を聞くが、たいしたことではない。朝から晴れた日がしが樹間をてらして気持ちがよい。

◎自由コーナーへのちょうど戦。  
設置コーナーと担当リーダー

### 西部ブロック研修会その1

## デンチーフ研修会



	所属隊	氏名	級
参	浜松4	吉田規行	2
加	タク	高倉邦寛	初
者	タク7	長谷川泉	2
名	タク	勝又達也	タク
簿	タク12	望月隆男	タク
	タク19	伊藤洋介	タク
	タク4	牧野隆彦	初
参	浜松7	浦上豊房	2
加	タク12	白尼浩久	タク
者	タク12	山本欽也	タク
名	タク19	近藤高之	タク
簿	タク4	成瀬宏生	初
	タク7	河合明雄	2
	タク12	小山幹雄	タク
	タク19	石原敏弘	タク
	タク19	渥美博久	タク
参	浜松4	谷典幸	初
加	タク7	竹島享弘	2
者	タク12	岡本康弘	タク
名	タク19	小野雅志	タク
簿	タク19	野中智	タク

茶道担当の12回A・M(アドバイス・マザー)が入山、紅白の幕を張りめぐらして野立の準備をする。行列を作って順番をまつスカウト、3回4回と繰り返したスカウトもいたほどであった。

弓矢のコーナーでは、風船に名前を書いて的とし、矢で射た。リーダーの名前を書き当たら「リーダーが死んだぞ」と楽しんでいるのが目についた。

各コーナーとも今日は撤収の日だという気持ちがあるか、明るい声にははずんでいた。リーダーの顔にも安どの感が満ちあふれていた。

昼食後、撤営開始 13時閉所式 下山。

2泊3日の西部キャンポリーは閉幕された。下山していくスカウトの姿には明日をめざして飛躍する努力と希望に輝いているように見えた。

足取りも軽く隊伍を組んで歩いていく。

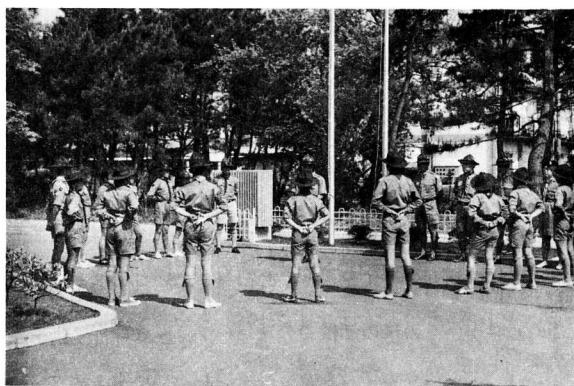
両親のもとへ。

前日より降り続いた霧雨は、早朝より五月の若葉に照り輝く、すばらしいデンチーフ研修会日よりとなつた。

五月十一日主任講師浜松地区コミッショナーの三輪悦爾氏を迎え、西部ブロックの歴々の指導者が十一名、ボーイスカウトが二十一名が浜松北部公民館に集まつた。前日より数度、夜遅くまで、指導要項に基づいて、打合せたおかげで、大変スムースに事が運び、充実した研修会が出来た。八木本リーダーの司会のもとで国旗儀礼を北川リーダーが、西野リーダーが「この旗は」を指揮し、大きな声で合唱し主任講師の「歓迎の言葉」を聞くと、スカウト達の瞳は開き、耳をそばだて、生き生きした態度で今日一日をやり通すぞ、という気魄が見られた。

これはいけるぞ、よいデンチーフが生まれるぞと大変嬉しい気持となつた。

教える側も、教わる側も呼吸がぴったり合い、終始一貫して、カブスカウトのよき兄さんとなるべき研修が続けられた。



デンチーフ研修会風景

## 西部ブロック研修会その2

## デンマザー研修会

6月8日、浜松南基地において、西部ブロック・デンマザー研修会を開催致しました。梅雨時の小休止のよく晴れた一日、野外で、ゲーム、歌を楽しむお母さん達は、家のこと忘れ、一日楽しく研修をすされました。主任講師に、牧野カブコミッショナー、隊長に細江1団の杉山隊長、副長に浜松19団の小沢隊長、デンマザー役に浜松4団の松井副長、西野副長、浜松7団の永田隊長、スタッフに各隊の指導者が出席致しました。おかげをもちまして、デンマザーの出席63名と、盛大なデンマザー研修会ができました。デンマザー研修会の感想文を最後に発表させて戴いて、いかに有意義な研修会であったかを想像して頂きたいと思います。

食事おやつ付き、有意義なお話等、ありがとうございました。役員の方々のお骨折り、感謝致します。カブの集会に行きますと、顔がほころびっぱなしの子供を見ると、入隊して本当によかったです。いろいろな経験を体得してほしいと、希っております。学区を越えて、集ってくる子供達とお友達が増え仲良く協力しあうことは、大変よいことだと思います。又この上に、地区のカブラリー等、多くの友人に接する機会を作っていただきたいと思います。

親子共に動く喜びのようなを感じました。が！ 反面、D.M.として役目がつまるものかと云う心配も今日の説明で



デンマザー講習会スナップ

感じました。昨今の世の動きは親子として触れ合いすら少ないように思います。日常生活のなかでは子供とのうちとけた時間も持てません。しかし、このカブを通して、意識して、これらの時を持ちたい、努力したいと思いました。D.M.としての役目は大変ですが、それだけの意義があると感じました。

受けたまで、どんな事をやらされるかと内心、どきどきしながら望みました。意に反し、なごやかな楽しい雰囲気の中で、すばらしいお話、ゲーム等とても楽しい一日を過す事が出来まして、感謝致しております。今までのんびりムードで子供を育てて来ましたが、これからは、カブ隊活動を通じて、子供と共に成長し、自分をみがかなければと、大いに反省させられました。今後も、この様な講習会を、度々受けられる機会が設けられる事を希望します。

今年初めて子供をボーイスカウトに入隊させ親子共々新米の心細さを味わっておりましたが、今日の研修会に参加しておぼろげながら、ほんの少し実体をつかめた……と申しますよりも実体を感じられましたことを嬉しく思っております。今日からは子供にも自信をもって、カブ隊の意義や組集会のあり方などを話してやれると思っています。来週の組集会には、こっそり見学に行って、先輩のD.M.の活躍ぶりを盗み見てこようと思っております。



デンマザー研修会受講生一同

受講者名簿											
浜松第4団(12名)				浜松第7団(12名)				浜松第12団(14名)			
佐藤栄	石原金	金子	細江第1団	柴夏	江山	辻幸	浜松第19団	神谷鈴	赤垂	笠酒	伊野澤山
植志	陽常	みゆき	(名)	日高	頭田	田幸	(名)	瀬瀬	水堀	島添	森川山
みづゑ	定	子	子	重和	和勝	ゆき	のぶ	豊克	豊好	山田須	山田渥
え	な	き	き	枝代	枝	ゑ	のぶ	好二	好三	牧子	美絵子
外加	茂木	山通	中村	須松角	佐山	大川	大川	山宮	木原	森保	柴田若
内加	茂千	静鶴	早苗	蘭田	佐山	小林	小林	下嶽	美穂	山村	由美子
外加	茂木	通江	江子	利孝充	藤田	野辺	野辺	勝好	美穂	泰基	登喜子
内加	茂千	江子	代	純千	利	静德	静德	とす	子	豊田	由美子
外加	茂木	江子	代	弘美	子	希弘	希弘	子	子	泰基	由美子
内加	茂木	江子	代	子	子	子	子	子	子	豊田	由美子

## ボーイスカウト活動について

## 12団 戸塚みね子

期待と不安で一杯な気持で、上進式を迎えてから、もう半月以上もたってしまいました。

かねてから、ボーイスカウト活動については親子共に、非常に関心が有りました。

必要以上な消極的な性格を持って居る子供を、いかに人並な性格にしたいと願う親心で一杯でした。その半面、凄く責任感の強い所が有り、この様な良い面を延ばしてやりたいと思い、色々な面で期待をかけて居ります。

早速の初級歓迎のハイク、とても心身共に疲れて帰って来ました。

この経験が、その後の学校での遠足にプラスとなって出てまいりました。

それは、今迄でしたらクタクタになつて帰つて来る所、「僕、ちっとも疲れなかったヨ」と。やはり、ムダではなかつたんだな。すでに子供は子供なりに、一步前進したんだな、と喜んで

居ります。

本人が非常に心配していた、先輩達の事、班集会から帰つて来てからは、それも解消された様です。

ボーイ隊になったんだと、とても意識をして居ります。

これを機会に、強い気持を持った子供にしたいと考えています。

この乱れた世の中では、ボーイスカウトの様な、ある程度厳しく、規律正しい生活等、そんな時間が有る事が子供の為にはどんなに良い事かと考えます。

隊長始め先輩達との接触、これも初級の子供にとっては、何かも安心と期待で一杯の事だと思います。

上進式の後での歓迎夕食会の席で、多くの先輩達がお話を下さった事など、充分身に染みている事でしょう。誰もが経験して来た感激を、胸一杯に入れて進んで行く事でしょう。ボーイ隊に非常に期待をかけて居ます。どうぞ宜しくお願い致します。

## 電話級アマチュア無線講習会

申込者数68名、選抜試験者及び合格数56名、講習会受講者52名、終了試験合格者数40名。これが、この講習会の結果である。スカウティングの1つとして、今年度頭初計画を立てた、電話級アマチュア無線技士養成課程講習会も、5月の各隊への呼びかけ申込受付6月の勉強会、7月の選抜試験、そして、この度の8月6日～9日の3泊4日の舍營による講習会も無事終った。あとは、免許証の申請、免許状の申請、開局への仕事が各自に残されている。

「CQ、CQ、こちらはJA 2ZSF」ボイスカウト浜松地区アマチュア無線クラブが、第1声を発してから、すでに2年、最近のハムのブームが、多くのスカウトハムを誕生させている。また、40名の仲間を得た。合格したものに、おめでとうをQSP。残念だったものには、また、会おう、がんばれよ、よくやった。もう少しだったね。をQSPする。

生活指導の面から一言。各隊においてすでに完成されているべきはずの舍營に対する態度は、一考を要した。

反省すべき事一小学生でも、ハムはとれる。ただし、彼にそのニードがないとき、なんなくでは、だめだ。1日の勉強時間12時間、こんなにやらなくては、本当に合格できないのだろうか。それでも全員、最後までがんばってくれた。無線の資格は、国家試験なのだ。結果がでた今、全員合格を念じていた、スタッフの皆さん、ごくろうさまでした。

最後に、浜松アマチュア無線クラブの講師の皆さんにお礼を申し上げます。長い間、ご苦労さま。また、お空で、お会いいたしましょう。JR 2GFM記



アマチュア無線講習会風景

**感 想** 浜松1団 河原崎 敏

40の手習いという諺がある。今回のアマチュア無線講習会も私にとっては40の手習いであった。しかし諺に終ってはならないものがいくつかあったことを忘れる事はできない。私は自分の隊で多くのスカウトに受講するようすすめてきた。自分も受ける

ので一諸にやろうと。幸いにも14名のスカウトが参加してくれたことは實にうれしかった。6年生もいる中3もいる私だけは中年である。頑張らなくちゃと思って早めに教科書を手にしてみた。工学にいたってはほとんど初めてみることばかりである。これがどうして合格できるだろうか。何度か絶望感をいたいた。

しかし小学生に負けたくない。女房にも恥かしいことはしないでくれと励まされた。職場にあっても家庭にあってもほとんど教科書を手にすることはなかった。それでも講習会には休暇を都合していただき受講できた。受講中のきびしさは合格してよろこびにかわった。講師並びに本部員の諸兄には感謝のことばもない。唯々、ありがとうございましたと言えるだけである。特に、私などのように出来のわるいのを相手の指導ではおそらく手をやいたにちがいない。

これまで何度か（職場）講習もやった。試験もやった。そのうちでも今回の講習ほど私の人生に得るものはない。

これをステップに大きく残された人生に向ってジャンプしたい。どうもありがとうございます。（1団 隊長）

### ハム講習会 21団 斎藤 知弘

4日間の講習は、予想したとおり、むずかしかった。工学の勉強は、二日目三日目など半分以上わからなかった。今でも、あんなに簡単に合格したのが不思議なくらいだ。

4日間の講習ではなく、5日間ぐらいで、すこしゆっくりめにやってくれたらもっと楽にできたと思う。班のへんせいのことだが、さまざまな人がいて無線技術のこと、ボイスカウト運動のこと以外にもいろいろと勉強になった。

楽しいことは、あまりなかったが、補習のとき、成績のよかった班が賞品をもらえるのが、いちばん楽しかった。それは、わが班に工学の天才がいたので、3回も受けたことができたからである。

いちばんの思いでは初日に、ものすごい雨があつて、つい電になってしまったのにもかかわらずロウソクの明かりの中で、補習したことである。

いちばんがんばったのは、三日目の夜だ。いちおう、補習の時のテストで合格点をマークしていたのだが、それでも不安で、1、2時ごろまで勉強していた。おかげでよく日は、ねむたくてたまらなかつた。

早ければ、11月中旬に免きょしょうがくるそうだが、いまから免きょしょうがくる日を心待ちしている。

# 指導者養成委員会報告

指導者養成委員会の大半の行事も大成功のうちに無事終了いたしました。これもひとえに皆様方の深い御理解と御協力のたまものと厚く御礼申上げます。BS講習会（第181期）は浜松地区独自の計画であり心配ましたが、団委員長、団委員の方々が卒先受講され、質量とも大成功のうちに無事終了出来ました事は各団並に奉仕のスタッフの方々の努力のたまものと厚く御礼申上げます。主な研修会を下記にあげましたが、この外県西部の各指導者講習会に

浜松地区よりBSコース（新居町）11名、CSコース（小笠町）9名、（浜松市）14名、受講されました。8月末迄に68名の方々が指導者としての資格を得られましたが、現リーダー及びこれからリーダーになられる方々に御願いしたい事はスカウト運動の基本の要素を忠実に理解され、大人のレジャー的な運動にならない様、子供達がよりよき社会人になる様指導していただきたいと思います。

指導者養成委員長 齊木 誠二

## 主な研修会の受講者数と本部員

### ◎DC研修会（受講者128名）

5月11日（西部）葵町北部公民館

受講生32名	主任講師 三輪 悅爾
隊長 鈴木 俊輔	
副長 永田 進児	
奉仕員 7名	

5月25日（浜北）小松八幡宮

受講生28名	主任講師 外山 吉保
隊長 大城 智	
副長 小倉 茂嘉	
奉仕員 7名	

6月1日（中央）八幡宮

受講者32名	主任講師 柴田 薫
隊長 長 名倉惣一郎	
副長 原田 芳彦	
奉仕員 13名	

6月8日（南部）可美村若林公民館

受講生36名	主任講師 井ノ口泰三
隊長 友田 文哉	
副長 滝本 守	
奉仕員 15名	

### ◎DM研修会（受講生189名）

5月25日（南部）篠原小学校

受講生32名	主任講師 井ノ口泰三
隊長 後藤 守利	
副長 原田美智子	
奉仕員 14名	

6月8日（中央）八幡宮

受講生49名	主任講師 柴田 薫
隊長 名倉惣一郎	
副長 井ノ口智子	
奉仕員 16名	

6月8日（西部）自衛隊南基地

受講生59名	主任講師 牧野 繢
隊長 杉山 正徳	
副長 小沢 登	
奉仕員 8名	

6月15日（浜北）浜北社会教育センター

受講生49名	主任講師 外山 吉保
隊長 野中不二夫	
副長 布施 隆三	
奉仕員 5名	

### ◎リーダー研修会（受講生40名）

6月21日～22日 浜北市林業青年の家

受講生22名	講師 浜松地区トレーニングチーム
7月5日～6日 細江町長楽寺	
受講生18名	
講師 浜松地区トレーニングチーム	

### ◎団委員研修会

7月20日 浜松市立青少年の家

受講生52名	講師 井野 包次
内田 嘉一	
宮沢 広士	
大橋 光男	
板倉 一民	
隊長 三輪 悅爾	

### ◎BS講習会（第181期）

8月30日～31日 浜松市立青年の家

受講生34名	主任講師 三輪 悅爾
隊長 牧野 繢	
副長 原口 芳彦	
平野 武	

## わが団のトランペット隊

暑い夏が今年も終ろうとしている。

二年前の秋、トランペットが暗いケースの中で眠っている。さぞお日様の当る所で、きれいな音色と思っていることだろう。

指導して下さる先生が少なく。スケジュールの一杯の所をむりに、今の岡本先生にたのみ五、六人のスカウトで、トランペット隊が発足した。

何も知らぬ私は、すぐ音が出るのだと思っていましたがどうしてどうして。マウスピースと云う、小さな物で顔を赤らめての練習が長い間つづきます。

スカウトにとって忍耐です。

やっとの思いで音が出た時のほころぶ顔々。ホットするのも束の間、感高い音が白鳥ホールに流れます。今度は騒音の問題です。

ある方の厚意で、消防署のホールをお借りする事



浜松第12団・トランペット隊

が出来ました。スカウト達も力一杯練習に打ちこめる様になり今では隊員も二倍以上に増えている様です。華やかなファンファーレの陰に、皆んなの協力と個人個人の努力を忘れる事なく、大きく育つって欲しいと思っています

浜松12団 望月八重子

## 浜松第4団20周年記念式

7月19日（土）15時30分から、浜松市児童会館において友隊の多数参加のもとに結成20周年記念式を盛大に挙行いたしました。

吉田野営行事委員の開式宣言に始まり、国旗掲揚、君が代斉唱、連盟歌、団物収者への黙祷、団委員長のあいさつ、感謝状贈呈、来賓祝辞並びに紹介、世界ジャンボリー派遣スカウト森下研君の紹介とあいさつ、をもって第1部セレモニーを終り、次いで記念公演として浜松放送劇団員による狂言ミュージカル“附す”を鑑賞、生の演技にスカウト達は大変感激した。最後に、カブスカウトのやくそく、ボーイスカウトのちかいを全員で唱和し、山葉財政委員の閉式宣言により記念式の幕をとじた。

地区役員並びに各友隊の方々には本紙をお借りし

て式典が盛大に行われたことを感謝すると共に厚く御礼申し上げる次第です。



浜松第4団結成20周年記念式～感謝状贈呈～

団委員長 内田 時世

浜松第4団は皆様方の暖かい御理解と御指導により本年7月7日結成20周年を迎える事が出来ました。厚く御礼申し上げます。思い起せば昭和31年正月、現在地区担当コミッショナーであり、4団カブ隊長の牧野績君が突然私宅を訪問され、初対面の彼がボーイスカウト隊を作りたいと熱心に呼びかけられた事が第4団の動機でございます。当時は自分の子供を教育するのにボーイスカウトの「ちかい」と「おきて」程都合の良いものはないと考え、当時は私の子供はボーイスカウト年令ではなかったのですが（当時はカブ隊はありませんでした）牧野君と二人で無我夢中で結成に努力いたしました。勿論その陰には私の父の牧内田六郎の無限の慈愛ある指導援助が有った事は申すまでもなく、牧野君の熱意と発團当時の役員の方々の善意ある御理解、御助成により4団が7月7日七夕の夜、誠心高校の校庭にて厳粛に発足いたしました。

発團当時はスカウト達も夫々良き公民として立派に社会のお役に立っている今日を思えば、感無量でございます。ボーイスカウトのネッカチーフは团カラーがあり、それぞれの意味を持っています。4団のネッカチーフは、日本晴れの空の紺碧に通ずるという意図によりスカイブルーを選定いたしました。4団のスカウトは日本晴れの清潔しい空の様に素晴らしい

人に成長してほしいと思います。

20年の年輪は人生で言うなれば成人ということです。私達4団もスカウト仲間の中でやっと一人前になったことになります。此の際、初心に帰えりスカウト運動の何であるかということを謙虚に思考する必要があると存じます。スカウト活動は素晴らしいものであると私達は自信を持って礼讃し、先輩の遺したスカウト活動の歴史を更に静かに回顧する事も大切な事であると存じます。現在に至るまで着々と團が前進をし成果を挙げているのはリーダーを中心としての團役員の努力と御父兄のご協力のたまものであることは勿論でございますが、地区の皆様のお陰と感謝申し上げます。人々のスカウトに着目しているのは名譽あるスカウトの歴史でも立派なスカウトの教育指導でもありません。人々が着目しているのはスカウターの日々の実践行動であり、毎日の成果であると存じます。それには一人一人がスカウターであるという自覚と責任を忘れてはならないと思います。「人のお世話にならぬように、人のお世話をするように、そして、むくいを求めぬように」と奉仕を通じての実践に更に邁進致したいと存じております。スカウト運動発展のため変わらぬ皆様方の御指導御協力をお願い申し上げます。

弥栄

## 野営について

ぼくは現在2級だ。スカウト生活をして1年と5ヶ月になる。そんなわけで5~6回ほどの野営に參加した。

大部分の野営は、疲れ、興奮などで夜に思うように眠れず生活がつい不規則になってしまふ。

ぼくはこんなことではいけないと思う。それはボーイスカウトという所は心身をともにきたえる所だ

19団 B S隊 関本 晃一

からだ。またぼくはもう2級で、今の初級、これから入隊してくる初級達の手本にならなければならぬからだ。ぼくは今からでも遅くはないと思うので、もっと野営に慣れて、より規則正しい野営生活を身につけていきたいものだ。またそれを努力してなとげるのもスカウトだと思う。

# S S コ ー ナ ー

## アドベンチャーと浜松地区ヨット 16団S S隊長 新井信一

俺はシニアである。もうぢき立派な社会人になると云う自覚自分の計画立案を実施するアドベンチャー、二泊も三泊もして富士二合目グリーンキャンプ場に到着した。スカウト達は日焼けした其の顔にたくましさを感じました。雨はキャンプに付きもの、様に入山した其の夜からボツリボツリ朝礼委員会の朝礼引続いての作業分担も雨の中、大相模ソックリの土俵造り。吊橋作業チエンソーにて直徑十五から二〇センチの丸太切り組立て、ロープ張り、モンキー顔負けの福世隊長の作業振り、ミニアーチエリーコースの開拓班原口隊長は思う存分に原始の森を切り開いてのコース造り。スカウトも大変なら隊長も亦危害予防重点に完成迄の苦労も又後日訪れる大きな楽しみの一つ。ヤグラ造りと、板下し作業も順調に、参加百二十名が其れ其れ開拓に取り組みました。

營火は營火委員会に一任委員長指示のもと始まった訳だが、雨にスッカリぬれたタキ木、サア何時迄待っても燃え上らない。伝令が本部に何回か飛び材料を要求すれども何も無いの一点張り、カレコレ一時間誰云ふとなく枝下しの森に一人二人と出掛け協調精神の盛り上り、全員が枯枝を集めて、ヤット營火らしく炎と共に歌声も夜の富士の山にこだまする。成しとげた喜びが夜の白々明けるまで小營火となってキヤンブサイドを賑かにしました。

サイドの土盛の後、開所式三三五五最後のアドベンチャーに戦闘、目的に向って歩き出す彼等の後姿に限りなき力強さを感じたので御座います。

浜松地区のヨットカヌー洋上訓練数えて本年は五回目、出発時点から荒天模様のところへ実際に台風五号の御入来にて風も波も強く進水式もおぼつかない。折角地区で購入して戴いたヨット二艇、とに角開所式、国旗掲揚、之が問題であり富士でも有った訳だが国旗掲揚にリーダー共々基本より勉強すべきだと



「準備完了」～三ヶ日町大崎にて

感じ、続いての宮沢副委員長の言葉の中にもハッキリ申され、「そなえよ常に」金科玉条の徹底こそ急務ではないかと思ひます。サア何んとかやろうと進水準備、浜松地区の二艇コカコラの一艇、借用の三艇の儀装が始まり、愈々進水式。波も風も烈しく仲々想う様に進まず記念写真がとれたかどうかと心配でした。ヨットはセール一杯に風を孕んで快走、八木本、内山隊長が大声にて、それセンターボートラダーだチラの操作と海上一杯に指示が飛び交い、スカウトは危険をライフジャケットとリーダーに求めての三日間、訓練への執着が台風の余波をも押しのけて終日、浜名湖が雨と風にて白くかすむ夕暮營火はどうすると協議したが、止めよう、出来ないだろう、処がやろうやろうの声と共に、海パン一つになって營火準備。

雨中筏造りがして有ったので海上に引出し大カガリ火は洋上に赤々と燃え上り何時尽きとも知れない營火を囲んでの一時間有余。最高だ愉快だったと一幕の終了。

最終日如何にもヨットは出せないのでカヌーレースをやる事にする。五ヶ班一齊にスタート進まないカヌー、方向違いに行くカヌー、チンするカヌー、グランド一杯位の広さに喚声と水しづきを揚げての熱戦、サテ二番走者三輪地区コミ、白ハチ巻姿も凜凜しく順調に第一ブイを通り第二ブイえと進む。ところがブイを左に見てカヌーは沖合いえ、心は岸にカヌーは沖にと、愈々困ったトタン、チンしてしまった。助けに行くスカウト、腹を見せたカヌーを引張る三輪コミッショナー、本日の圧巻でした。中島隊長、原口隊長もヨットでチンして愈々御執念のお様子何より結構です。

最後に参加スカウトに何んでも書け、無記名の反省記録は、来年の参考に十二分役立つ事と信じます。

浜松地区委員会のお骨折りにてホントに楽しく出来ました事をスカウトと共に感謝申上げ此の項を終ります。



S S ヨット訓練

## S S 隊 の 活 動

当隊は高3・2名、高2・1名、高1・10名計13名の隊である。  
3月舍營（カッターボート、サイクリング、ハイク、オリエンテーリング） 4月上進式 5月山住ハイク、浜松祭駐車場整理、観劇（俳優座カモメ） 6月水泳、南信濃ハイク、観劇（民芸迷路） 7月セーリングボート保守、団結成20周年記念  
8月世界ジャンボリー、県連アドベンチャーキャンプ、南信濃遠征旅行、B S キャンプ援助、セーリングボート……。毎月の打ち合せと盛りたくさんのプログラムを消化してきた。

S Sにおいて、多様化するS Sのニードを汲み出す事も必要

## 浜松4団 S S 隊

だが、その前によくS Sと話し合い、「本音とたてまえ」を見分けることが必要だ。何回も何回も無駄に見える様なミーティング。そこにはB Sに見られないS Sらしい活動がある。

今夏はそれぞれ小人数に別れて、プログラムが展開された。『ルックワイド』この活動の中から、広い視野に立てる人間になってほしい。不景気な我々の時代の次は、今のS Sが世代を背負って行くのだから……。S S、R Sの指導者にとって、リーダーとしての人間性が、プログラムに影響する。

# 青崩峠ハイク報告

B S 浜松4、11団合同シニア隊 1975. 6/14~6/15 11団 齋藤欽司

**1.日時** 1975年6月14日～6月15日

**2.目的** 武田信玄の遠州入りの経路をたどり、歴史的物の見方を高め、同時にその大自然のすばらしさを知る。

**3.目的地** 静岡県と長野県の境 青崩峠

**4.日記** 6月14日（土）本曇り

水窪まで列車は予定通りだったが、やや込んでいたので、湯谷まで立たされる。16:43に予定通り水窪に着いたが、池島行のバスは、川を融てに北の方にあった。17:11発のバスは17:20に発車。池島着は17:47で10分の遅れ。民家の方に山へ入ることを連絡し、ついでに気象の変化について聞く。それによれば、空は一面の曇だったがその雲が北へはいのぼるようになると大雨が来るそうだ。気象学の面からも正しい指摘だった。

500mほど北へはいると川原に掘つたて小屋があったがもう少し行く。18:15に地図にある木材切り出し用のケーブルをくぐり、152号線も、もはや道路ではなくなつた。



日本でただ一つの足の神様

コンクリートの崩れ止め（石垣の上）の道を300mくらい行くと完全な山道にぬけた。18:50分ごろ、川を渡る橋（9mぐらい）のたもとに小さな平地を見つけて設営。（池島より5km）水面からの高さは1.5m。

テントは団のようにロープでポンチョを2枚つて露、小雨を防ぐ。ポンチョのはしには石をおいて固定する。中はやや窮屈だが重いテントを持ってくるよりはいい。

まき集めを終えるともう20:00。ケイタイ燃料で湯をわかし自家製のインスタントみそ汁（あぶらあげ、こぶ等をいため、みそにあえてもう一度いためてバックしたもの）を入れて夕食。このみそ汁は予想外にいける。21:00にかたづけをして、湯をわかしてのみ水を作つて班会議。大雨のこないのを祈つて床につく。かとりせんこは4巻つけた。

6月15日（日）晴れ

昨日からやや水分が足りなかったので、朝食前には体が水分をほしがった。こういった短期の野営でも飲用の水は軽視できない。それにしても天候がよくなつてうれしい。すがすがしい朝だ。ポンチョを取り去つて起きたのは5:30。予定では5:00のはずだったが……。体操しているとき営林署の方々3人と出会う。早起きのほどには感心する。食事をすませるまで時間がかかった。持ってきた食糧が多いので減らそうとしたのだ。これが車酔いの原因になるとも知らず……。撤退に時間をとつてしまつた。2人というのはこんな時困る。アキカンはうめたかったが、地質がくさらせるようなものではなかつたから袋に入れて「弥栄」の後出発。7:40であった。

8:05に足神様に着き小休止。きのうからであるが荷のパッキングが悪いせいか肩が痛い。9:15ごろか？ 草むらでかくされた道が見えず、川を渡つてのぼりにはいったところで営林署の方（さっき会つた方）が「峠は川向こうの道だよ」と教えてくれた。行ってみればなるほど道にも見えたので感謝の気持ちでいっぱいだった。このあたりから道は沢と重なつてるので石がごろごろしている。つゆにぬれた草で靴やジーパンはグッショリ。

大自然の偉大さに驚嘆しながら歩いていたが、峠の手前30分くらいのところでまた新しい「ワンカップ大関」の栓を見つけてガッカリした。登りがきつくなつたところでゴミひろいをはじめた。「日々の善行である」このあたりには美しいガがとても多い。昨日かとりせんこをつけたがそれは寄つてくるガのためである「ツリガネリンドウ」？らしき花が見られる。まさに自然の宝庫である。

9:45青崩峠着。野口隊長との通信連絡はまだとれない。標高mであるが急に涼しい風に吹かれる。ここからのながめは実に壯觀である。15分休憩し信州へはいる。

「青崩」の由来となるような石灰岩の青白い切り口が（天然の）すばらしい。またここには土砂の流出を防ぐための砂防壁が並んでいるが、2～3t以上の大きな岩がその上にちよんと載つてゐるのには驚いた。あわてて沢を渡つた。このときからなぜか歌いはじめた。大声で、その声がきこえて野口隊長がひょっこり姿を表わし我々の24時間ハイクは一応熊伏山荘にて終わりとする。

10:45分だった。「タカ」を見たのは10分後だった。

## 5.反省

- (1)テントなしの露営は成功し自信をもてた。
- (2)時間は（特に歩行）予定通りだった。
- (3)大自然のすばらしさを充分味わえた。
- (4)このあたりの地理（生活、祭り、社など）を知らないまま出發したので文化面の特色を味わうのにはやや難だつた。
- (5)相変らずむだな食糧が多い。
- (6)24時間のハイクにしては中味が濃かつたように思える。
- (7)生物学をもう少しやっておきたい。
- (8)道をあやまつても平気で歩いていこうとしたあの態度は研究の余地がある。（地図の実習）



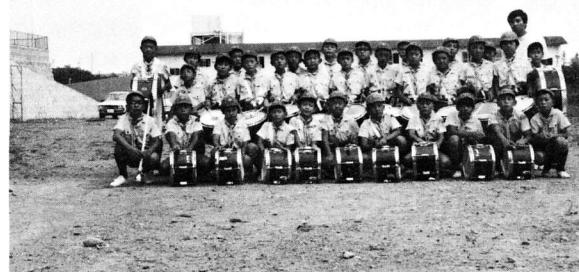
# 浜松12団を語る

12団C S隊長 宮沢 広士

昭和31年のある夜、住吉幼稚園の松林におおわれた園庭で結成式を挙げた7団の団委員長だった私はアイバ野のジャンボリーに参加したり色々活動をつづけているうちにやはりリーダーが不足することに気がついて自らカブスカウト隊を創設して隊長となり団委員長は「角さん」と云うお医者さんが受けついだが途中で色々な問題がおこり私と三輪さんと先年亡くなった稻垣さんと相談の上12団を独立させた。そして現在の中島団委員長に運営面をお願いして以来今日で12団は12周年を迎えることになる。当時のカブは既に社会に出て活躍している。又当団のリーダーになっている者もいる。それらのことを振りかえってみると誠に感慨の深いものがある。

創立当初から団の方針として一切の寄附を受けないし一切寄附的な行為はしない。教育に必要なものは一切団の責任に於て父兄がこれを負担することを根本方針として来た。従って町内自治会や校舎の如何を問わざどの地域の子供でも入隊する事が出来る。スカウティングをほんとうに理解し協力出来る家庭が距離のことを言わないので入隊して来る。かつては磐田郡水窪町の子供が入隊していて毎回の集会に一同も欠席しなかった事さえある。進学や部活動の事などで休隊する様な子供は比較的少い。部活動が終ってからハイヤーで渋川のキャンプ地まで来たスカウトもあれば近隣でキャンプをしている時は途中で塾へ行って又キャンプに参加しているスカウトもある。これらの事を乗り越えてゆくのがほんとうのスカウティングであると思っている。

我が団のカブスカウト隊は10年近く鼓隊訓練をつづけている。だんだん理解されて来たが物珍しい最初のうちは別としても数年間絶えずいろいろの問題になやまされ続けて来た。この頃になってやっとほんとうに理解され始めて来た様な感がする。学校も学年も住所も全くバラバラの子供達を集めて本来スカウティングでない鼓隊の訓練をつづける事は全く至難な業であった。寄附を受けないと云う方針に基いて太鼓は総て団で購入した。専任の教師もいろいろと代った。夜おそらく夕食ぬきで特訓したことあった。父兄から文句が出る。一時は全廃しようかと思った事さえある。ダラダラした行動に節度をつける為には鼓隊訓練が最適であると考えてこれを



浜松第12団カブ隊の鼓隊のみなさん

取り入れたのであるが訓練をする時間が余りにも見出せられない。どうしても無理をしなければならない。それらの無理を承知でしかもこれらを乗り越えて実行し継続することがスカウティングであると私は思っている。今度B S隊の進級制度が大変やさしく改正されたが或る意味では退歩につながっている。旧制度の頃これにチャレンジして準スカウトになった一人の青年は今回の改正を聞いて「ナンダ、やれば出来るよ、努力が足りないんだ」と言葉すくなく不満そうにもらしている。大人だけがヤタラと子供の立場を理解した顔になりたがって良い子になったつもりかもしれないが、案外子供はそうは思ってくれない。そんなことが多い世相だと思う。苦しいところを親やリーダーの側で背負ってしまって楽しい易しい部分だけが子供の側に残っている。結論的に甘やかしていることになる。そして自主性がない自己性がないと言っている人が多いのではないか。カブもボーイもシニヤーも苦しさを乗りこえた楽しさの味を充分知らしめなければ、ほんとうのスカウティングにはならないのではないかと思う。

B S隊の教育は野営が一番である。我が団の望月隊長はシーズン前から毎月野営をくりかえしている。体験による教育、身体でおぼえる教育、カブの鼓隊も全くそれと同じ考え方である。

そして毎年3月完成期の鼓隊出演には父兄達は涙を流さんばかりに拍手を送ることになる。親子共々ジーンと来るのである。そしてやがてそれは自信となり、ほんとうに身についた能力となって来る。それが真の意味に於ける人生の宝であり、幸福な人生えとつながって行くのだとB - Pもローバーリングツーサクセスと云う本の中にかいている。

## 西部ブロック・リーダー紹介

### 浜松第4団

#### 牧野 繢 カブ隊長

昭和31年、浜松第4団誕生以来、団と共に歩いてきたスカウトマスター。団結成前、一面識もなく、誰の紹介者もなくして、故内田六郎先生宅へ飛び込んだ程の無法者であった。ボイ、シニアのリーダーを勤め、地区に於ては副コミ、事務長の経験を持つ1人である。昨年6月団の事情によりカブ隊長に就任、もっぱらカブ隊長の正常化に力を入れている。静岡県庁に勤務。

#### 松井伸篤 カブ副長

副長よりは隊長と云った貫禄十分、温厚な人柄で父兄からは好感をもたれ、デンマザーの指導も熱心、スカウトには厳しい面もあり、4団の期待するリーダーである。中北薬品に勤務。家庭はお母さんと、愛妻の3人家族。

#### 西野伸子 カブ副長

本年4月4団に就任。かつては可美1団に在籍した事もあるママさんリーダー。カブ課程の実修所を履修、浜松で女性2人のウッドバッチャーの1人。カビングについては4団の宝。副長としての活躍が期待されている。

#### 鈴木ひろみ カブ副長補

本年5月よりカブ隊のお手伝いをお願い。現在愛知大学の学生さん、カブスカウトの良きお姉さんとして活躍している。今後の期待大である。

#### 浅井由美世 カブ副長補

本年5月よりカブ隊のお手伝いをお願い。現在常葉短大的学生さん。鈴木副長補とコンビを組み、良きお姉さん。今後の活躍を期待している。

#### 千葉 聰 ポーイ隊長

初代総長後藤新平、2代目総長斎藤實氏の生れた水沢市から8キロメートル程東に行った北上川の辺り岩手県江刺市の出身



左より鈴木(実) 鈴木(ひ) 浅井 野口  
千葉 牧野 松井 西野の諸氏

兄姉がリーダーをしていた関係から小学校6年に入隊。高校の時富士訓練野営へ仲間3名と参加雨の中をニワトリを抱いて山中湖一周をした思い出がある。昭和43年下田市にBS隊が結成され副長に就任。異動により浜松へ移り4団に籍を置く。リーダー経験8年目。都田川ダム建設事務所勤務。家族は愛妻と子供2人それにお母さんの5人暮し。

#### 野口光一 シニア隊長兼ローバー隊長

ボーイ隊長からシニア隊長に移り、海に山に文化方面にと、スカウトのニードを受け入れ、スカウトと共にこの道にはげんでいる。趣味、交際も広くその上スカウト活動の為か、未だ独身である。（彼と同年の人の子供がボーイ隊にいる）勉強熱心で国内外の資料が豊富にある。

#### 鈴木 実 シニア副長

ボーイの隊長、副長の経験10年をもつスカウトマスター。浜松児童相談所勤務の時4団のリーダーとしてスカウト、快活で大変温厚な人格の持主。めったにスカウトを叱ったことはない49年からシニアの副長として活躍している。家族は御両親と奥さん、2人の二世の6人暮し。浜松財務事務所勤務。

### 浜松第7団

#### 板倉昭二 SS隊長

常に率先垂範の活動家。CS隊、BS隊、副長として活躍。45年CS講習以来46年BS講習、47年BSウッドバッチャ研修49年CSウッドバッチャ研修、本年はBS実習所とリーダー毎年講習を受ける努力家。結果法に関しては何處に出しても恥かしくない人である。会社員。

#### 長谷勝信 BS隊長

植物学、これが本職ではないかと思うほど詳しい。社会に何か役に立つ事はないだろうかと考え、当団に入隊した。バイタリティな行動の反面慎重さは团随一。声の一番大きい人といえは有名である。市役所勤務。無線（J A 2 N Q A）

#### 浦上勝房 BS隊副長

CS隊、副長二年、本年BS隊副長となる。テーマ、ゲーム作りは浦上と團では重宝がられる人。團行事には何時も一家総出のスカウト一家。奥様はCS隊副長、長男、BSスカウト、



左より 酒井、新田、鳥嶋、中村  
板倉、浦上、長谷、永田、北川の諸氏

次男、CS隊組長。郵政省職員、萩町郵便局勤務。

#### 酒井一三 BS隊副長

細い身体からでる馬力は根性と闘志のかたまりの人、子供が好きでリーダーとなる。愛車ジープはスカウトのためという。乗車するスカウトは囚人護送車と呼ぶが、B S隊の機動車として活躍中。鉄工場を経営する社長さんである。

**新田秀一 B S隊副長**

長谷隊長の甥である。仕事に追われているが余暇を見つけてスカウト活動をしてくれる。気だてのやさしいお兄さんである。会社役員で獣医でもある。

**村松邦男 B S隊副長**

新人のホヤホヤである。身丈6尺、体重20貫、柔道3段、全日本自衛体柔道大会で優勝という経歴の持ち主ですが、気はやさしく、胸の奥に秘めた闘志は未来のホーフである。

独身、下宿中、自衛官、浜松南基地勤務。

**永田通児 C S隊長**

子供さんをカブ隊に入隊させると共に御夫婦でスカウト活動に協力する。46年5月デンダット、47年1月C S講習、48年C Sウッドバッヂ研修、49年B Sウッドバッヂ研修とリーダー道を邁進中の勉強家。47年1月C S隊副長、48年4月C S隊長となり、カブリーダーひと筋五年。囲碁有段者。

自衛官、浜松南基地勤務。

**北川良雄 カブ隊副長**

物静かな反面、闘志を秘める活動家で常に隊長を助け、いつもよいアイデアを出し、隊活動を盛りたてくれる。特にその話術はユーモアがあり父兄、スカウトから親しまれ、信頼が厚く実行力、粘り強さは実にすばらしい。

またスポーツマンで各種大会出場の常連として知られ、剣道

は二段の腕前である。

自衛官、浜松南基地ジェット機教官。

**浦上チヨ カブ隊副長**

家族揃って、スカウト活動に奉仕される明るく若きあふれるファイトの固まりのママさんリーダーである。アイデアと行動力に富み、幅広く価値ある隊活動を実現する。

よく気がつき、小まめで骨身を惜します、ゲームなどにまごついているスカウトがいると目立たぬように、ソッと手助けする。見ていて好感がもてる人である。

主婦。

**鳥嶋桂子 カブ隊副長**

いつも暖かい雰囲気を作り出す親切な人柄で、目をみはるのは人からの頼まれごとをイヤとは言えない。それどころか文字通り献身的につくす奉仕の精神である。

スカウト活動を暖かく見守る優しい御主人の協力のもとに、人と人の間をつなぐ世話役として、女性らしいきめ細かい配慮が常に払われ、隊活動に忙がしく動きまわる貴重な存在である。折目正しく健康でユーモアにも富み、つきあって楽しい人である。

主婦。

**中村京子 カブ隊副長補**

いつも笑顔をたやすく人知れず誠実に努力する。すなおな美しいお嬢さんである。美声でカブ隊の音楽は、一手に引受けゲームに歌にとハッスルし、子供を夢中で遊はせる特技の持主。

夢を与え、心を育ててくれるこの人に、スカウトの純粋な眼は、心から信じ尊敬している。

学生。

**浜松第11団****市橋章司 B S副長**

リーダー歴10年目。朝霧での世界ジャンボリーでは、奉仕隊として1ヶ月間の長期活動に大活躍。県連友功章を授与。現在は、後輩に花を持たせるため、副長となり、もっぱら若いリーダーの相談役。統率力、指導性は、B S仕事の面でも抜群である。

**大原武夫 B S隊長**

リーダー歴6年目。現在B Sのリーダーとしては、最年長（といっても30そこそこ）。頼りになる兄貴分です。総ての物事に研究熱心で、B S活動においても、綿密な計画をたて、厳しく指導していく人である。家庭では女子2人の良きパパでもある。

**戸田一郎 B S副長**

リーダー歴1年目。現在、仕事は車輌（電車）の整備をしている技術屋。自分から積極的にリーダーを希望する張り切りボーイです。他にも数々の青少年関係の活動を手がけており、これからが期待される人です。最近、不測の事故にあり、腰を痛めて休養中ですが、一刻も早く全快し活動に参加して欲しいものです。

**富田扶司夫 B S隊長**

リーダー歴5年目。先輩達の制服姿にあこがれてリーダーとなり早5年たちましたが最近やっとB S活動の重要性が証ってきたところです。B S活動では、少し口やかましそう嫌いがある様です。が話のわかる隊長ではないかと思います。もっと



左より 大原、市橋、富田の諸氏



鈴木氏



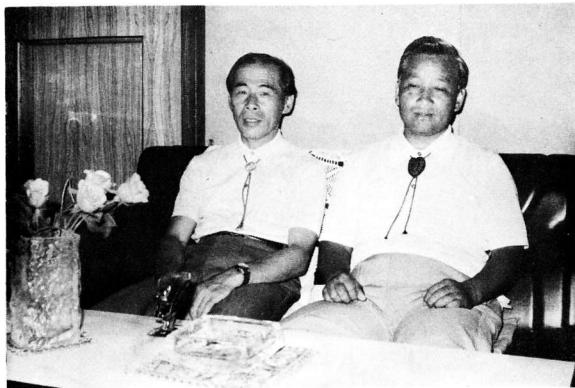
戸田氏

積極的にB S活動に仕事に飛び回りたいと思っています。家庭では男の子1人の良き父親である。

**鈴木俊輔 S S隊長**

リーダー一歴は10年と非常に長い。遠鉄ボイスカウトにカブスカウトをどのように導入したらよいか苦慮中。指導者の中では最古参。血液型がB型ということで情熱的である。

## 浜松第12団



左より宮沢、坪井の両氏

### 宮沢広士 C S隊長

浜松C S隊第一号のリーダー。ボッボッ隊長を譲ってトレーナー一本になりたいとか。C S達とのつき合いも20年近く、今なお研究し尽せないと、熱意の程をしのばせる。「C S教育は教育学、心理学や社会学という学問の世界では駄目だ。結局身の回りの事が人柄を生む。という事に、どのリーダーも心の底から気づいてDMやDDと力を合わせ、真剣に考えて貰いたい」とそんな事を望んでいる様だ。現在日本連盟副リーダートレーナー、浜松地区副委員長、海外派遣スコットランド他数カ国と活動。日連の副リーダートレーナーは、どの隊にもいるというのではない。私達12団にとって、一つの栄誉である。身体は大きくないが、意表をつくアイデアマンであり、式典等の演出家でもある。良い後継者を期待している。

ライオンズクラブ会長、浜松短期大学講師、マーブル学園々長と多忙。

### 坪井 悟 C S隊副長

丸中産業という材木屋の社長。いろいろ忙しいが子供の為にというので、自分の子がC Sを卒業してから張切って副長役を買って出た程のC S隊の理解者。講習会、研習会と気持は向くが忙しさのあまり思うにまかせず、速く社長業を止めさせたいと思うが、今年は渥美半島の方の団地に進出するという計画なのでそれどころではないらしい。斬新なアイデアで子供達をよろこばすことが好き。女の子にはもてないがC Sには大もて。



左より鈴木、望月、石野の諸氏

### 望月 鑿 B S隊々長

昭和48年よりB S隊々長として活躍。長男S S隊、次男B S隊に所属。子供の入隊後スカウト熱にとりつかれ、リーダーとなる。今ではスカウトはキャンプ以外にない、身体で覚えることが、まず基本であると、野営につぐ野営とシゴキ！いや全く熱心である。キャンプの実践家。反面ムード派でもあり、家庭

には最も信頼する副リーダー（奥方）がいる。その良き副リーダーは、12団のトラン'ベット隊創設時のマネージャーでもある。望月家には、見事に整理されたB Sに関する記録帳が積み上げられており、その歴史を一読する事ができる。子供達と真剣にスカウト運動に取組んでいる姿は、B S隊々長として最適任という言葉がピッタシ。B S一家。

### 鈴木孝志 B S隊副長

3年前まではB S隊々長の経験を持つ、物静かな長髪の万青年。我が団も今年は12周年を迎える。『写真でつづる12団、の写真展が待たれる。城北3丁目のドームカメラ店の経営者。スカウト運動への執着、熱意は人一倍、又天体、宇宙研究家として広く知られている。専門的に聞きたい方は、ドームカメラ店へどうぞ。

### 石野研二 B S隊副長

C S隊副長の経験あり、研ちゃんの愛称でみんなに親しまれている。真面目な好青年。昭和49年には永年のリーダー活動により地区表彰を受けた。誠実そのもの、努力家。近く二世がC S隊へ入隊の由。ヤングとうちゃん、ガンバッテ！

### 河合邦次 B S隊副長

C S隊-B S隊-S S隊-R S隊-リーダーと生え抜きの第一号。リーダーとしては最年少であり、堅実な考えの持主。中堅リーダーとして将来に期待されるヤングパワー。



左より小倉、三輪の両氏

### 三輪悦爾 S S隊長

浜松地区コミッショナー、フイリッピンジャンボリー参加、12回生みの親の一人である。昭和31年7団結成、20年のスカウト運動のキャリアを持つリーダーの最右翼。

現在浜松地区コミッショナーとして、ボイスカウト教育の全責任を担っている人物。事務能力卓抜、研究家であり、温厚、誠実、何事もやり遂げるタイプとソツがないのが欠点。B S運動の神様、男はだまってスカウティング。

### 小倉浜孫 R S隊々長

B S隊-S S隊-R S隊修了とスカウティングの心をとらえており、リーダーとして将来を大いに期待されている努力型の真面目な青年。日本連盟主催による陸上自衛隊鼓隊指導者養成講習会修了。

## 浜松第19団

**小沢 登** C S隊長

47年团委員、48年C S副長、50年C S隊長となる。教員でJ R Cの指導員、水難救助員、児童画診断士等の資格を持ち、油絵が得意である。また最近は習字の練習もしているとか、多芸でファイトのあるリーダーである。毎月アイディアに富んだ活動を計画しスカウトにいろいろ経験を与えようと張りきっている。

**石原満子** C S副長

49年指導者養成講習を終了し、50年C Sの副長となる。C S隊ただ一人の婦人リーダーで、隊長をよく助け、細かいところに気をくばり、スカウトの幸を願って頑張っている。趣味はバーボール。主婦。

**藤田 洋** C S副長

B S、C Sともに47年にリーダーの資格を取ったが、仕事が忙しく直接リーダーとして活躍していなかった。50年から当団のC S隊副長となる。明かるく熱心なリーダーでいつもスカウト達と楽しく活動している。浜名郡舞阪町役場に勤務。

**八木本忠夫** B S隊長

19団創立のとき团委員になったが、B S活動はリーダーとなることであると考え44年B S隊副長、45年B S隊々長となり、46年WB研修所を終了して現在に至る。当団のB Sはすべて八木本隊長が手をとり足をとめて育てられたものばかりである。5 NJ第32隊副長、6 NJ第32隊々長になると共に現在、地区副コミを兼ね、その忙がしさは想像に絶する。趣味はヨット、特技は調理師でそれぞれすばらしい腕を持っている。航空自衛隊浜松北基地勤務。

**平賀弘済** B S副長

49年より副長となり自衛官で通信技術はすばらしく、又スキーの指導員の資格をもった、得がたいリーダーであるが、最近



左より小野、八木本、小沢、藤田の諸氏

からだをこわし思うように活動ができないのが残念である。

**小野耕助** B S副長

本年度より副長となる。忙しい仕事の中をスカウト活動に張りきっている。大成建設に勤務しており趣味は狩猟、射撃、カメラと多芸の持主である。仕事で得た知識や山での生活（しし狩、くま狩）等の経験を生かしスカウトの野外活動についての適切な指導をしている。

**吉富 瞳** B S副長

49年にB S講習を修了し、本年度より副長となる。常日頃より熱心に隊長を助け、キャンプ、運動等でスカウト活動に尽力している。自衛官。

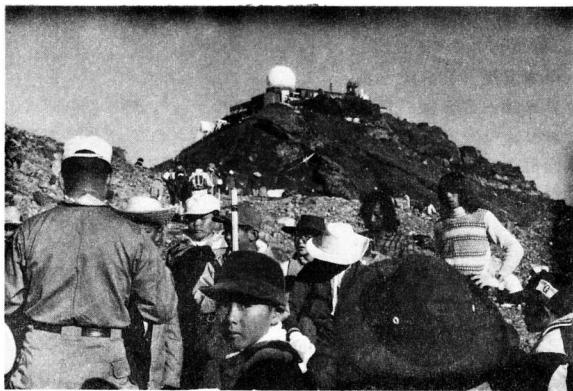
**山口 洸** S S隊長

43年に19団が創立して以来7年間C C隊隊長をつとめ本年はS S隊長となる。幼稚園の主事という忙しい仕事のかたわら長年の間スカウト指導に尽してきた。明かるいスポーツマンで、幼稚園で園児にはじめてサッカーを指導したのは有名である。

## ふじ登山

7月28・29日、7団のカブ・ボーイ・ガールスカウトで、ふじ山に登りました。朝6時半に清水銀行前に集まって7時に出発です。ぼくは、日本一高い山に登るので、どきどきしました。東名高速で、ふじインターチェンジまで行き、と中、白糸の滝によりました。

ふじ山のすそ野は、たいへん広くて、木がたくさんはえいで、牛がいっぱいいました。五合目は車や人でいっぱいです。バスの中で服を着がえて、食事をしました。その後、集合してふじ山に登る注意を聞いて、つえを分けてもらい、いよいよ出発です。はじめは、めずらしくて元気よく歩いて行きましたが、



ふじ登山中の和樹くん……ガンバレ！

7団 カブ隊 うさぎ 嵐 和樹

六合目に着いて休んだ時、それだけでぼくはいやだなあ、と思いました。七合目から八合目の間は、くるしくて長く感じました。八合目的小屋で一泊です。おじさんが、ねる場所にあんなにしてくれました。

場所がきまると食事です。おなかがすいていたので、おいしかったです。朝が早いので、すぐねました。

29日午前1時半におきて、山小屋から出ると、外はうす暗くて、下の方の町のあかりがチラチラして、きれいでした。でも、れいぞう庫みたいにひえてきて、さむかったです。2時半に山小屋を出発してちょうど上に向いました。と中でぼくは、さむくて頭と、おなかがいたくなつて泣けました。お母さんに、うでをかかえてもらって、さい後までがんばりました。ご来光を見た時、がんばってよかったと思いました。ちょうど上で食事をして、お鉢めぐりをしました。ところどころに雪がのこっていました。帰りは、すべるようにずるずるおりてきたので、早かつたけれど、くつの中は砂だらけです。

五合目から河口湖によって帰ってきました。バスの中では、つかれてねむってしまいました。ふじ山は、もうこりごりです。



## 思い出の富士登山 7団カブ隊 くま 宮下貴行

「ヨイショ！ ヨイショ！」 富士登山です。

ぼくたちは、いっしょにけんめいに登りました。

頂上ではないのに、もうこんなにも、くもより高く登ったなとはげましてくれるような風景もみられて、たいへん楽しかったです。登山道もせまいので、おちそうになつたりしてたいへん気をつかいました。

こんどは「石だんだぞう」とこえがきこえてくる。

石だんを「ヨイショ、コラショ」ぼうをついて、いっしょにけんめいにのぼった。

こんどは、石やじやりのようのが、いっぱいありました。

ぼくは足をふみはずして、すってんころりんと、ころんでしまつた。

あのときのいたさは、今思いだしても、こわくなつてしまふくらいでした。

どこかの人が「あれが8合目のこやだぞう」といった。

近くに見えて、なかなか8合目のこやにつかなかつた。

やつとあと石だんだけで8合目のこやにつくというのに、足がなかなかあがらなかつた。

石だんを登つて、げんかんのところまできたら、ほとんどつかれきつて動けませんでした。

それから、ごはんをたべてねたのだが、これがまた思い出の一つだ。ねるときは、一つのふとに4人ぐらゐのぎゅうぎゅうぎめなので、とてもねぐるしかつた。

つぎの朝、2時におきて2時30分に出発した。父は体がわるくなつたので8合目にいた。母と弟といっしょに登つたはずなのに、母と弟が「さむい」と言って8合目にもどつてしまつたらしい。

ぼくは「こまつてしまつたな」と思った。手ぶくろも、たべのも、ぜんぶ母のところにはいはつたからだ。

とにかく、がんばつて頂上にのぼろうと思つた。手は、こうりついて、自分の思うようにうごかない。休けいも少なく、いそいで登つた。がまんして、ただ足を前の人について、うごかすだけだ。

やつと頂上にたどりついた。ぼくは、とてもうれしかつた。

こやの中にはいはつて、みんな休けいした。その間に皆なはやきいんや、おしるこや、みそしるなんか買って、たべたりのんだりした。

そうして御来光をみた。まわりの雲が、あかくそめられた中央のへんに、まっかな太陽の顔がしづかに出てきた。こんなに美しい太陽をみることができて、とてもうれしかつた。大きくなつてからも、この美しい景色は思い出すと思う。

おはちめぐりをして、測候所へ行つた。この坂は、登つた人でないとわからぬと思う。ほんとうに苦しかつた。

「やつたあ。パンザイ」日本で一番高い所にいる。たまらなくうれしかつた。

たい長ありがとう。リーダーありがとう。

## ハム講習 19団 BS隊 野中 智

8月6日、青少年の家に、約50名のボーイスカウトがあつた。ぼくもその中のひとりである。19団から4名参加した。開所式がすむと、さっそく講義である。ひまもなんにもない。びっくりしてしまつた。父が、先に免許をとつたので、ぼくもとりたいと思って参加したのだが、やっぱりふつうのコースよりきびしかつた。その夜は雷雨で停電になつたにもかかわらず、9時半ごろまでやつた。講義をただ聞いていただけではわからない。教科書をよく読んで、はじめてわかるものだ。

7日、前日もかんづめだったが、きょうはもっとかんづめである。会場の外へ出ることもできない。だが、講義中は冷ぼうがきいていて気持ちよかつた。みんなわからないなあ、わからないなあ、と言つてはいた。

8日、だんだん練習問題のまい数が多くなつてくる。やっぱり、試験が近くなつたなと思う。この夜は12時ごろまで勉強している人が多かつた。てつ夜した子もあつたという。

いよいよ、試験の日である。午前中は練習問題ばかりやつた。そしてまちがえたところは、なおした。ぼくは、はたして、そのところから試験にうかるのかなあと心配になつてきていた。

午後、試験会場にははつた。どきどきした。問題がくばられる。おつ、これならいいそうだ。

後日、知らせがとどいた。合かく!! やつたあ。19団は、みんなうかつた。よかつた。本当によかつたと思う。

## 吉沢の夜 19団 CS隊 くま 松島祐治

吉沢小へきて、一ぱくのことだ。

友だちが「夜深し、しようよ」

「いいよ」

四組の組長と小沢君とぼくたちだ。

家から持つてきた、おやつを、食べながら、ねた。

副長のスリッパの音がした。

「だれか、きたぞ」のかけごえに、みんな、いっせいに自分の場所へ、かけこんだ。

「こら。まだ遊んでる。どんどん、ねなさい」と、おこられたが、またやつてはいる。

かいちゅうでんとうを、光らせたり、ふとんでプロレスをやつた。

小粥君と石原君の妹と、けんかをやつた。

これからは、さわがないようにするようにした。

## 舎 営 7団 CS隊 しか 鳥嶋真勝

ぼくは、8月8、9、10日と三日間カブスカウトで三ヶ日青年の家へ舎営に行きました。青年の家に二ばんもとまるので、うれしくて、うきうきました。

8日は、水泳のくんれんをしました。手前の方はとがつた石が多くてぼくやたくさん的人が足のうらをきつてしまつた。でも、みんないっしょにけんめいおよぎました。

よるは、おばけ大会や花火大会をやりました。すこしあかるすぎたみたいで、あまりこわくなつたです。でもどんなおばけがでてくるかな、とたのみました。おめんをきかさにかぶつたり、こんにゃくがとんできたりしたけど、一ばんおもしろかったのは、ゴリラでした。山ぞえ君は一ばんはじめだったので、びっくりしたようでした。一ばんひやつたのは、もうこれでおばけはいないと思っていたとき、隊長さんが大きな声で「ウオッ」といわれたので、みんな「キャッ!!」と言いました。それから花火をもらつてやりました。

ねるとき、みんなさわいでねませんでした。それからおきるとき一ばんはやくおきたそうです。パンガローの中で、まくらのとりあいっこをしてあそびました。

9日は、うさぎ、しか、くまと、それぞれにわかれて、べんきょうしました。ぼくはしかなので日本のみらいのそうぞう画と植物のスケッチとパノラマスケッチをやりました。

リーダーがみんなのカブブックにサインしてくれました。

よるになつたら、いよいよキャンプファイヤーがはじまりました。どんなふうにやるのかなと思い、むねがドキドキしました。

「遠き山に」をうたいながら、まるくなつたところで、たいちようさんが營火長にふんそうしてスカウトだいひょう二人といっしょに、はいつてきたので、みんなでうたをうたつた。隊長さんたちが、わの中を一回りしました。

ぼくは、むねがジーンとなつた。

みんなも、きんちょうしてシーンとしていた。

かく組長が、スカウトだいひょうから火をもらって点火した。そしたら、いきよいよくもえだし、きゅうにあかるくなりまし



### 食欲おう盛～カブスカウト～

た。みんなで「もえよもえよ」のうたをうたって、そのあと、うたやげきをたくさんやって、とてもたのしかったです。

そして、つぎの日は体育かんでゲームやドッヂボールをやつたり、そとでソフトボールをやつたり、とてもいそがしかったです。

ぼくは、まんるいホームランをうつたり、すいかもわったし調子よかったなと思いました。

だけど、一組はふざけてばかりいて、集合がいつもおそく、ぼくと組ちようがいろんな手をつかって、あつまらせたけど、なかなか言う事をきいてくれず、ぼくはいつもおこっていたみたいでした。

とてもたのしい舎營で、とくにキャンプファイヤーはよかつたなあと思いました。（おわり）

### 西部キャンポリー 12団 BS隊 大島 淳

西部キャンポリーは浜松西部地区の五の団が参加する小規ぽなジャンボリーみたいなものだとぼくは思う。ぼくの級友の水谷君も参加している。

西部キャンポリーはぼくが初めて経験する野営だった。初級スカウトの仕事は、テントのそっこうほり、あっちこっちから集め、まきが多い所があると教えあったまき拾い。重い水の入った容器を二人で力を合わせて運んだ水くみ。みんなの食べ終わった後の食器洗いをやらされた。

ぼくは何もかもが初めてで、前日それほどきびしくないと思っていたこととは、まったくちがっていた。

このようなきびしい中でも一日めには「人間の第六感」を使うゲームというのを食後にやった。このゲームは暗やみの中で、におい、手ざわりでその物を当てたり、それが何の光かを当てるゲームだった。においはだいをいかわったが、手ざわりと、光はあまりよくわからなかつた。

二日めの日は特修章をとるのにはげんだ。初めに計測章をやつた。歩幅で坂道の長さを調べるもの。木を目測でどのくらいかを見当づけるもの。木の高さがどのくらいか。川の幅がどのくらいかというふうに四つに分かれていた。まずは坂道の道のりだ。四回もやつたがついていない。その時1メートルの歩幅でやればいいということが心にひらめいた。やってみたら13.5メートル。みごとぼくのかんは的中。木の長さは合格したが、木の高さで失敗し、川の幅は正しかつた。このようにいろいろがんばってとろうと思ったが、結局たつた四つの章しかとれなかつた。

三日めには、特修章の自由コーナーというのをやり、その中でも印象的だったものは12団の茶道である。五人の母がいろいろな道具や山の花を持ち、朝早くからキャンプ地に来てくださつた。（その中には、ぼくの母もいたのである！）お茶よりもじつは、あの丸くて白い、ふわふわしたおまんじゅうを、もつともっと食べたかったのである。

つらいこともあったけれども、今思い出すと、なつかしさや楽しい思い出が心にうかんでくる。登校日の日も休んでこの野営に参加して、よかったと思った。早く二級スカウトになりたい。

### カブスカウトのハイキング

7団 CS隊 くま 中野 英寿

5月18日、遠鉄電車に乗って浜北森林公園へ出発です。岩水寺駅でおりたとき、駅員さんはだれもいないので不思議に思いました。

駅から歩きました。約50分ぐらい歩き最初の休けいでした。

前の日曜日に、正君の家でみんなで作った、す箱をかけることになりました。隊長に「今から、す箱をかける」と言われた時、だれがかけるのかとドキドキしてきました。

ぼくらの組は、ぼくのおとうさんがやってくれることになりました。

道路の上にある松の木にかけることになり、やぶをかきわけながら松の木に近づきました。松の木がぐらぐらゆれ、枯枝が何本もあるので落ちないかと心配でした。おりてきたときは、ほっとしました。

ぼくも学校の登りぼうには自信があるけど、松の木にも登れるようになりたいです。

下から見る、す箱がりっぱに見え、小鳥が早く入ってくれないかなあ、と思います。

### デンチーフ集会 12団 BS隊 望月 隆男

今度のデンチーフ集会は、とても愉快だった。そればかりでなく、大きい収穫二つを得た大変よい集会だった。それは自信のなかった国旗あげの仕方が理解できたためと、新しい、今迄とは違う進級制度を覚えたことである。

まず進級制度のことであるが、今迄とは違う点をあげるため、図にかいてみた。

月の輪（カブスカウト）	
初級	
2 級	特修章
1 級	技能章
菊 章	

左の図にあるように特修章なる物が新しくはいっている。改正された所は、僕たちの時は、進級する項目は項目でやり、まだ余力がある者が技能章の項目をやっていった

しかし、これからは進級するためには特修章の中のいくつかの項目をやらなければならなくなり、まだ余力がある者は、残りの特修章をやり、まだまだ余力のある者は技能章としてボーイスクウトではなく、シニアスカウトの項目ができるわけである。だから、今までより進級しやすいわけである。なぜ、そんなことをすると言うと、みんなは、なんとか菊までとれるのだが、隼や富士はむずかしく、それをとっている人は静岡県ではないそうである。だからみんながとれるようにと簡単にしたそうである。なお、特修、技能章などのマークは前のマークをひきついでつけたかうそうである。

又、旗揚げのことであるが、図にかいてあるようにならび、

ポール 副がひもをとき、正にわたし、正は準備ができたら、三指の形でうでをあげる。隊長の合図で旗をあげる。揚げ方は「君が代」のテンポで揚げる。旗は上までちゃんと揚げる。副は正から、ひもをもらい簡単にしばる。正は

副に合図して気をつけさせ旗にむかって敬礼。まわれ右して場所へもどる。そうである。



**雨の舍營**

19団 C S隊長 小沢 登

ちょうど台風5号の影響が出来、朝から降ったりやんだりの天氣であった。父兄たちも、深い山に行くということで何かと心配だったと思う。朝から電話が鳴りっぱなしであった。

とにかく、29名のスカウト、その他父兄、リーダーとを含め60名の参加があったことは、うれしかった。

2泊3日の予定も、晴れを予想しての計画であったため、いたずら盛りの子どもたちを、せまい部屋にとじこめておくことは、大変なことであった。そのため予定にない学習やゲーム、歌を沢山やらなければならなかった。

自分が教師として、学校で接する場合と、舍營の場（隊集会）で接する場合と、かなりちがつた接し方をしなければならない。それでも、同じ人間が教えるのだから、どうしても、教えるのだけの気持ちがぬけ切らなかつたが、子どもたちはかなり自由な形で、何でも言い、わからないことはわからないと言えた。

また、これまで隊集会でも、話さなかつたり、接近できなかつた父兄とも、自由に話すことができた。これも雨のせいだろう。

今回のような（吉沢）舍營では文明から隔離された世界にやって来たようなもので、テレビや新聞がないということは、かなり『マスコミ』に、うえていたと見るべきである。何か一つ話題があれば、みんなの問題となり、にぎやかに発展していく。

さて2日目の追跡ハイクも、もちろん雨。だから教室を使って行なつた。自然の中で、ゆったりと行なうものとちがつて、何か、せせこましい感じがしたが、それでも、子どもたちは喜んでいた。

来年こそは、よい心掛けをして、  
晴れにしたい。

**一番楽しかったこと**

12団 C S隊 佐藤一郎

春野町戒光院でのしゃ營で、ぼくが一番楽しかったことは、二日目のへやの中でのキャンプファイヤーです。はじめに、ろうそくを持って、とても楽しい歌をみんなといっしょに歌つた。おたまじやくしのおどりと歌、お山のおさるのおどりと歌、などおもしろくやつた。そして、ぼくたちのけきが始つた。そのけきはあまりうまくできなかつた。みんなしっかりやってくれなかつた。ぼくはいまでもこうかいしている。こんどけきをやる時は、せりふをはつきりさせて動きを大きくして、まじめにやるようにしよう、と思った。それにくらべて二組のけきは、なかなかうまいと思った。そして、三、四、五組とけきが終つた。どの組もうまかったと思う。それから、おかあさんたちのけきをやつた。こぶとりじいさんのけきだつた。時間は短かかつたが、「さすが」といえるほどうまかった。

ぼくは、このけきで思った。うまいけきは、おもしろければいいのじやない。見ている人がよくわかるように、動きを大きくやるようにするのが一番だと……。

**舍 營**

19団 C S隊 くま 池野好宏

しゃえいでいろいろおぼえたり知つたりした。おぼえたことは手紙のよい書き方や、木をきるとき、木の運び方などをおぼえた。知つたことは、自転車のチューブをはるのりのつくりかた、木の皮でお金のさつがつくれること、かぶれのじょうの人は山のどんな草にさわつてもかぶれるということです。

室内のついせきハイクで、いちばん苦労した関所は、めくらの国でした。かた足だけで3分間立つてあるということです。1分30秒ごろから立つてある足が、がくがくしました。

初めてここにねるときは、よくねむれなかつたけど、2回目のときは、すぐねむれました。

**森林公園ハイキング**

7団 C S隊 うさぎ 伊藤丈志

5月18日、日曜日、森林公園へ行った。9時ごろえきについたらもう友だちが来ていた。

新はままつから電車にのって、がんすいじでおりて、森林公園まで歩いた。

森林公園で、すばこをつけた。

さかい君のおとうさんが、木にのぼつて、つけてくれた。

「小鳥が入つてくれるといいな」と思った。

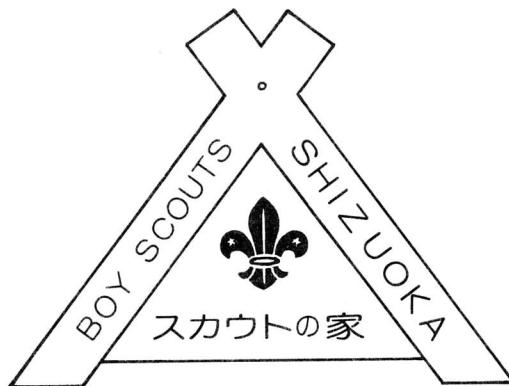
おべんとうを食べて、みんなでゲームをやつた。それから、絵も書いた。

帰りにガールスカウトの人たちといっしょに、ついせきハイキングをやって、ガールスカウトの人たちにまけてしまつた。

森林公園会かんで、アイスを食べて、とてもおいしかつた。とても楽しい一日だった。



巣箱のとりつけ～落ちないように～



## う ご き

50. 6. 1 県連総会（静鉄会館）  
 シ 中央ブロックDC研修会（八幡宮）  
 7 事務長会議（県民会館）  
 シ 野営行事委員会（法林寺）  
 シ 東京府中第5回キャンプ場案内（芝形）  
 8 中央ブロックDM研修会（八幡宮）  
 シ 南部ブロックDC研修会（可美小）  
 シ 西部ブロックDM研修会（南基地）  
 11 中央ブロック会議（法林寺）  
 13～16 WB研修所BSコース静岡第9期（朝霧野営場）  
 シ シ 特修第3期（那須）  
 15 浜北ブロックDM研修会（浜北教育センター）  
 18 SSリーダー会（法林寺）  
 19 コミ会議、トレーニングチーム打合せ会（法林寺）  
 21～22 中央ブロッククリーダー研修会（林業青年の家）  
 21 地区コミ会議（県民会館）  
 25 浜松第11回総会  
 26 県連理事会（県民会館）  
 シ 6地区県大会打合せ会議（法林寺）  
 27 東・中・西需品部打合せ会議（県連）  
 シ 組織拡大計画打合せ会議（法林寺）  
 シ 西部ブロック会議  
 28～29 東海ブロック会議（愛知県多治見）  
 29 無線講習会（法林寺）  
 7. 2 組織拡張委員会（法林寺）  
 5～6 西部ブロッククリーダー研修会（長楽寺）  
 6 コミ・事務長会議（富士グリーンキャンプ場）  
 シ 無線選抜試験（東部公民館）  
 9 組織拡張委員会（遠鉄健保会館）  
 12 県組織拡張委員会（県民会館）  
 シ BS講習会 静岡第181期打合せ会議（清水）  
 16 コミ会議（法林寺）  
 18 西部リーダー会議  
 19 浜松第4回20周年記念式典（児童会館）  
 20 団委員研修会（青少年の家）  
 シ SS集会（法林寺）  
 22 中央ブロック会議（法林寺）  
 シ 健康安全委員会（法林寺）  
 23 6地区県大会打合せ会議（法林寺）  
 24 県連理事会（県民会館）  
 25 コミ、トレーニングチーム打合せ会議（法林寺）  
 26 世界ジャンボリー（於ノールエー）参加者3名出発  
 27 北遠地区、水窪第1回カブ隊発団式（水窪町）  
 8. 1 SSリーダー会議（法林寺）  
 2～4 南部ブロックキャンボリー（渋川野営場）  
 2 6地区県大会西部会場現地下見（中田島）  
 3 霧山野営地下見  
 5 指導者養成委員会（法林寺）  
 シ 地区副委員長・コミ・事務長会議（法林寺）  
 6～8 県SSアドベンチャー大会（富士グリーンキャンプ場）  
 6～9 無線講習会（青少年の家）  
 9 地区コミ会議（県民会館）  
 9～11 西部ブロックキャンボリー（渋川野営場）  
 12 財政委員会（法林寺）  
 シ コミ会議（法林寺）  
 15～17 SSヨット操法研修会（大崎海岸）  
 18 東海自然歩道清掃出陣式（静岡城内小）  
 シ BS講習会 静岡第181期本部員打合せ会（法林寺）  
 19 東海自然歩道清掃（鳩巣山——秋葉ダム）  
 シ 地区委員会（法林寺）  
 22～25 SS特修第4期（山中野営場）  
 23 WB研修所BSコース静岡第10期打合せ会（県民会館）  
 25 青年婦人会館 友の会結成式  
 28 県連理事会（県民会館）

50. 8. 28～30 浜北ブロックキャンボリー（松崎）  
 30～31 BS講習会 静岡第181期（青少年の家）  
 9. 1 CS講習会 静岡第90期打合せ会議（法林寺）  
 2 野営行事委員会（法林寺）  
 3 6地区県大会西部会場打合せ会（法林寺）  
 6～7 CS講習会 静岡第90期（青少年の家）  
 7 BS講習会 静岡第182期（清水）  
 8 野営行事委員会（県大会準備委員会）（法林寺）  
 9 地区全リーダー会（法林寺）  
 12 浜松ライオンズクラブ大会の奉仕（野営行事委員  
 16名参加）  
 13～15 中央ブロックキャンボリー（天竜川河川敷）  
 13 コミ・事務長会議（静岡魚磯）  
 16 地区名譽会議（法林寺）  
 17 事務局会議（法林寺）  
 20 ヨット格納式（大崎海岸）  
 20 WB研修所CSコース静岡第11期本部員会議（県民会館）  
 21～24 WB研修所BSコース静岡第10期（朝霧野営場）  
 25 地区委員長会議（法林寺）  
 28 昭和50年度県大会西部会場開催（中田島海岸）  
 （地区表彰及び感謝状贈呈式）  
 10. 3 WB研修所CSコース静岡第11期本部員打合せ会  
 議（青少年の家）  
 4 事務長会議（県民会館）  
 5 浜松第16回10周年記念式典（海老塚・鹿島神社々  
 所）  
 7 組織拡張委員会（浜北市）  
 12 県大会中部会場（島田市）  
 13 コミ会議（法林寺）

## あとがき

●浜松地区組織拡大の一環としてこのたび各団事務所に大きな表札を配布しました。木製の12cm×70cmの大型のものです。これを見てスカウト入隊希望の少年の申込みに便宜が図られるよう大いに活用され偉力を発揮して頂きたい。

又県連にて作成した「スカウトの家」のアルミ製の美しい三角門札も同時にスカウト全員に実費配布をしました。これによりスカウトの家であることが一般の方にも充分PR出来るを考えられます。入隊希望者がスカウトの家を尋ね、いろいろ問合せが今後増えることと思いますが、一人でも多く少年達を我等の仲間入り出来るよう、組織拡大に連なるようスカウト諸君のご協力を切にお願いします。

●本61号は西部ブロック担当にて編集しました。スカウト活動の最も多い夏休みを中心に各団がいろいろと内容を盛り上げてくれました。充分ご期待に添えるものと思います。従って予定頁数をオーバーして本号は18頁建としました。

●9月28日に西部地区県大会がボーイ、ガール・スカウト合同で浜松中田島海岸に於て盛大に行われました。当日は多少空模様が悪かったにも拘らず 3,000余名のスカウトが一同に会し式典に続きゲームにも元気一杯日頃の訓練の成果を示しました。

●次号62号は浜北、引佐ブロック担当にて51年1月号としてお送りします。県大会の状況、世界ジャンボリーの報告等、又ブロックの特色をありますところなくお届けします。着々と準備が進んでおります。ご期待下さい。

●10月7日夜半の豪雨は遠州地方に大きな被害を与えました。被災されたスカウト及び関係者に心からのお見舞を申し上げます。  
〔Y・S記〕

## 発 行 所

第61号

日本ボーイスカウト浜松地区事務所  
 浜松市利町70-4 児童会館内  
 編集発行責任者 山中 将司  
 印刷所 朝日堂印刷所  
 昭和50年10月1日発行